

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

世界の GDP の 70~90% はファミリービジネスが占める

- 2 代目経営者・家族経営。日本の同族経営は、前近代的でマイナスと捉えられることが多い。上場している大企業で、創業家一族が社長に就任すれば、「ボンボンが」「坊ちゃんが」と、最初から色眼鏡が見られ、何かとやゆされる対象になりがちだ。しかし、近年、見直しの動きが出ている。海外では、同族経営のことを「ファミリービジネス」と呼び、まっとうな研究の対象になっているからだ。
- 日本でファミリービジネス社を研究する一人は、「この半世紀、会社は株主のものだとする株主資本主義という大きな流れがあった。だが欧米では、その反省に立ち、新しい目でファミリービジネスを見る人たちが登場している」という。経営学の世界では、「日陰者」扱いされてきたファミリービジネスだが、実際の社会ではファミリービジネスこそが、経済の中核を担っている。
- 米国で、ファミリービジネスを支援、研究している Family Firm Institute (FFI) によると、世界の GDP (国内総生産) の 70~90% はファミリービジネスがつくり出しているという。資本主義が最も先鋭化している北米でも、GDP の 80~90%、雇用の 62% はファミリービジネスがつくり出しているのだ。非同族会社と比較すると、ファミリービジネスのほうが好業績だったという研究はいくつもある。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2013 年 11 月 9 日号)

経営者のための危機管理

成長と老化とは引き換え

- 人間が生きるためには酸素が必要だ。だが、「活性酸素による細胞の傷は年を取ると、蓄積し、老化の原因にもなる」(生物学者の田沼靖一・東京理科大学教授)。成長は老化と引き換え。実は、この理屈は企業にも当てはまる。人間が年齢を重ねるごとに、活性酸素による細胞の傷が増えていくのと同様、会社も成長に伴い、組織の中に余分な酸素が増え高齢化する。
- 会社が成長すれば、まず社員の数や事業の数が増える。その結果、組織の運営が複雑化し、社員の個性も均質化していく。その分かりやすい弊害が、定例会議や承認プロセスの増加、組織の縦割り化や手段の目的化、減点主義評価の蔓延などだ。それらは、当然のことながら、経営効率を悪化させ、成長を鈍化させる

(参考:「日経ビジネス」: 2013 年 11 月 4 日号)

新規成長分野

移動スーパーで黒字を続ける

- 石川県小松市。郊外の住宅地を、移動スーパーのカラフルなトラックが走る。運営するのは、自動車販売を生業とするシブヤコーポレーション。移動販売車を製作し、各地の事業所に納品する中で、徳島県の移動スーパー「とくし丸」の経営理念に共感。畑違いながら、小売りの世界に足を踏み入れた。
- 事業の最大の特徴は、黒字運営を大前提としている点だ。シブヤの黒字の秘訣は事業運営主体の分割にある。商品調達は地元の商店に依頼。販売実務はパートナーと呼ばれる個人事業主に委託。車両は本業を活かし、パートナーへリース販売を行うことで初期費用を軽減、起業ハードルを下げた。シブヤは事務局として販売ルートを開拓、運営ノウハウの提供と車両製作を担当し、売上は三者で分ける。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2013 年 12 月号)

古典に学ぶ

仁義礼智は虚飾

(解説) 徳の上なるものは、徳であろうと努めない。だからこそ、真の徳となる。徳の下なるものは、徳であろうと努める。だからこそ、徳でなくなる。「道」にのっとろうとする「徳」が現われるのは、無為自然の道が失われた後であり、「仁」が現われるのは、徳が失われた後であり、「義」が現われるのは、仁が失われた後であり、「礼」が現われるのは、義さえも失われた後である。志操堅固な人間は、本性を守って虚飾を捨てる。つまり、仁義礼智を顧みず、ただ、「道」にのっとるのみである。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)